



・・・お手伝いの効果・・・

子どもたちに人気の『キッザニア』は、約100もの職業を疑似体験や社会体験ができる場所です。たしかに子どもは楽しめるかもしれませんが、これではただのテーマパークです。

《働くことの本物の体験は、もっと身近な日常の中にある》

たとえば夕食のあとに、お母さんとかたづけをする。お母さんが食器を洗って、お兄ちゃんがふいて、妹がそれを食器棚にしまう。「あー、きれいになったね。片付いたね。」そうやって喜びや苦労を

ともにする。それが大切な家族の“協働”作業です。忙しい農家の子は、家の手伝いをするのは当たり前でした。



「お母ちゃん、今日は何を手伝うの？」～「このうねに種まきをしてほしいけど、できるかな？ お母さんがお手本を見せるからね。」うまくできると、「お母さんのお手伝いがうまくできるようになったねえ。」その一言がとってもうれしかった。やがて母と汗をかきながら泥だらけになってま

いたハウレン草が大きくなって収穫する。そのハウレン草の美味しかったこと～教育評論家の尾木ママ

『キッザニア』には、そんな汗をかいて働く喜びはありません。畑仕事を手伝うことは当たり前だった頃と、今の時代は違いますが働くとはどういうことなのか。どれだけ大変で、素晴らしいことなのか。それは今も昔も変わりません。お母さんのお手伝いをするだけで、子どもには十分伝わります。

子どもがお手伝いをするとどんなメリットがあるのか？

- 1 達成感を味わい、責任感が培われる。
- 2 親子のコミュニケーションが深まり、きずなが強くなる。
- 3 生活力のスキルアップにつながる。
- 4 手順や段取りを考え、思考や工夫する力が高まる。



うちの子は、未満児なのでこんな話は、まだ早い???

不登校になった子どもや親に「不登校にならないためにどうするか」という話をしたり、中学生を持つ親に「思春期の子どもとの関わり」について話をしたりしても効果はありません。子育ては積み重ねです。うちの子は3歳だからまだ早いではなく、今のうちから、親としての心構えが必要です。

子どもがよく使う「類義語」の裏に隠されている本心とは？

- ☆「イヤだ」～イヤじゃない、不安だ、助けて、怖い、イライラする、疲れている、そばにいて、甘えたい、困っている、話したい など
- ★「めんどくさい」～怖い、悩んでいる、ムカつく、そばにいて、自信がない、がんばりを認めてほしい
不安だ、自分はダメだ、困っている など
- ☆「もういい」～助けて、見捨てないで、怖い、がんばりを認めて、不安だ、ダメな自分を認めて、自分はダメ、嫌いにしないで など
- ★「死にたい」～死にたくない、不安だ、話したい、認めてほしい、助けて、一人にしないで、ムカつく
自分が嫌だ、寂しい、甘えたい など

*言葉を額面通りに受け取ってはいけません。「不安だ」「認めてほしい」「甘えたい」という気持ちの表れなのです。親や先生は、その気持ちを汲み取ってあげることです。

できるかな？ (井上ひさし)

むずかしいことをやさしく
やさしいことをふかく
ふかいことをおもしろく
おもしろいことをまじめに
まじめなことをゆかいに
ゆかいなことをもっとゆかいに

今月の言葉

子どもには内緒ですが、豆まきの鬼役になったお父さん、迫真の演技で、大盛り上がりでした。取材に来ていた役場の広報の方や訓子府新報の記者さんが、「今年は最高でした。」と言っていました。ありがとうございました。

冬レク(3歳・4歳)

今年は、お父さんの姿が多くありました。お休みを取って参加していただきありがとうございました。また、お手伝いをいただきましたレク部の皆さん、寒い中、お疲れ様でした。